

鬼	北上市立	館
だ	の	より
第11号		



### 皇太子ご夫妻をお迎えして

平成11年8月1日、皇太子ご夫妻は、全国高等学校総合体育大会（インターハイ=Inter High School Athletic Meeting）の開会式にご臨席のあと、鬼の館を視察されました。

館の前では500人の市民が小旗を振ってお出迎えし、お二人とも、それにこやかに応えていらっしゃいました。

# 皇太子ご夫妻 鬼の館へようこそ

平成11年8月1日、全国高等学校総合体育大会の開会式に御臨席のあと、皇太子さま、雅子さまご夫妻が鬼の館にお越しになりました。

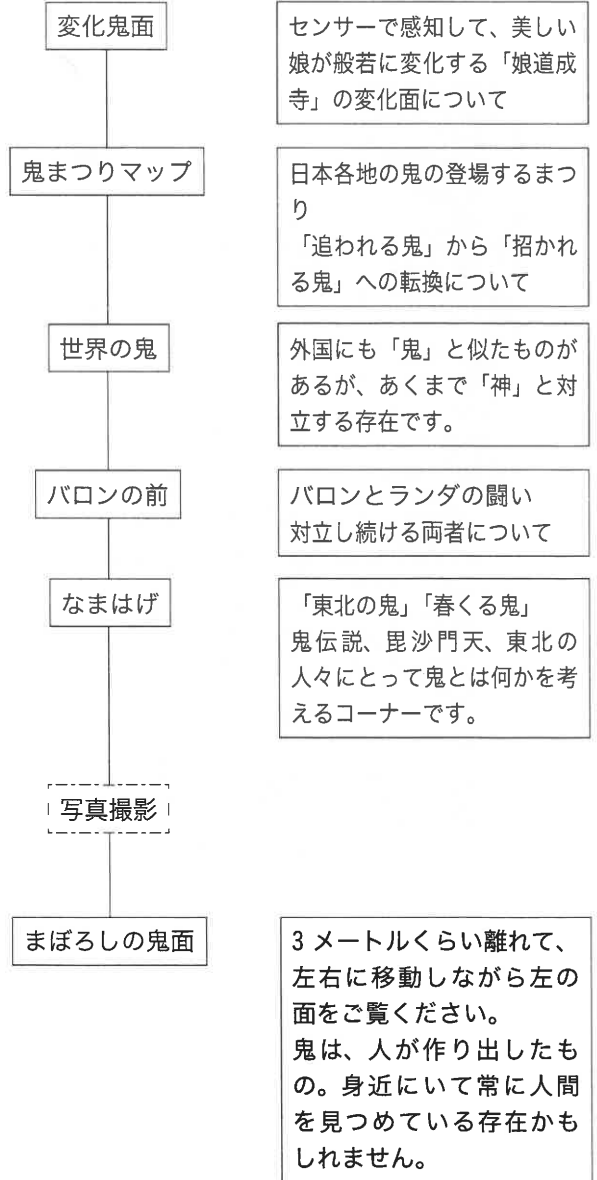
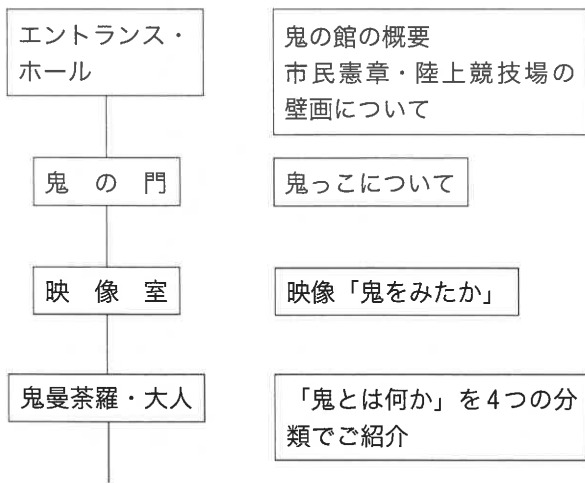
ご夫妻の到着を待ちかねたように、お昼過ぎから市民が集まり始め、ご到着の1時間前には、駐車場は、歓迎の人でいっぱいになりました。

午後3時50分ごろ、両殿下をのせた車が到着、館長と教育長がお出迎えし、館へご案内しました。途中、歓迎の市民にこやかに手を振ってお応えになりました。

館では、職員とガイドボランティアがお出迎えをしました。

控室で少しお休みになった後、館長の案内で館内をご覧になりました。

館長がご案内した経路は、次のとおりです。



## 皇太子殿下、雅子妃殿下をお迎えして

館長 門 屋 光 昭

「鬼と山の神とはどう関わりますか」

皇太子さまのご質問です。日本の鬼面コーナー、早池峰神楽の山の神面の前でのご質問でした。鬼を考える上で、山霊や山の神は重要な課題です。岩木山の大人（おおひと）が弥十郎を助け、山麓の津軽平野を開き、やがて鬼沢の鬼神社に祭られます。奥三河の花祭りに登場する山見鬼は山の神でもあります。鬼の本質に関わるご質問に、私は感激しました。

皇太子ご夫妻は、平成十一年八月一日、高校総体の開会式終了後、鬼の館をご視察下さいました。暑い日でしたが、ご到着の二時間以上前から、市民で駐車場周辺はごったかえしました。午後三時五十分、到着した車から雅子さま、次いで皇太子さまが降りられ、菊地憲一市教育長と私の前にお立ちになりました。真っ直ぐ見つめられる中で、私はご挨拶と自己紹介をしました。一言でいえば、皇太子さまの品格の良さに圧倒されました。お美しい雅子さまに、歓声が巻き起こり、お二人がしばし手を振られ、やがて館内にご誘導しました。

ご休憩をはさんで五十五分間の滞在予定でしたが、ごゆっくりなさって、一時間十分近くとなりました。展示室はポイントを決めて、三十五分前後でご説明をしました。娘面が般若面に変身する文楽面や笑うスイスの魔女面などのからくりを喜ばれ、皇太子さまがいたずら好きであることを侍従の方からお伺いしました。雅子さまがご質問を幾つかしてくださり、案内役をいたわってくださるお心遣いが感じられました。

最後の「幻の鬼面」の前で、三メートルくらいお離れになって、左右にご移動されながら、左側の面をご覧ください、と申し上げると、その通りになさり、凹面の眼が追ってくるのをお二人とも面白がってくださいました。「鬼」は人間が作り出したもの。良い鬼も、悪い鬼も、人の心が作り出したものですが、あるいはこの鬼面のように、身近にいて、常に人間のことを見つめている存在なのかもしれません、と話を結びました。

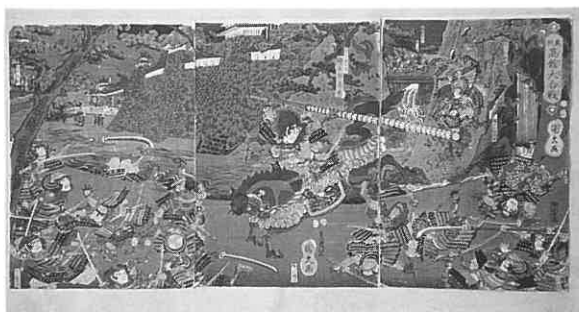
山好きの皇太子さまは、よほど早池峰山がお気にかかるかみえて、館内を出たとき、「あれが早池峰山ですか」とお尋ねになられました。早池峰山は見えませんが、確かにその方向であること、今日は早池峰神社の祭りで、神楽も行われている話などをしました。

緊張の中にも、晴れがましいひとときを過ごすことができました。

## 新資料から

### 錦絵 奥州高館大合戦

絵師 歌川国久 1857年(安政4)



奥州平泉藤原氏三代秀衡の死後、藤原氏の滅亡をもくろむ源氏の統領頼朝の策謀にかかり、藤原四代泰衡の時に、頼朝の弟である源義経をめぐる藤原家は分裂し、兄弟で相争うこととなる。その後 1189 年、源頼朝によって平泉藤原家は滅亡の道をたどる根源となった合戦を描いたものです。

絵は、奥州出身で義経方の武将である蹄五郎高

衡(泉三郎の弟)を中心に据え描かれたもので、周囲には泉三郎親衡と争う錦戸太郎国衡が描かれ、さらには高館から馬で逃れようとする義経主従の姿が遠近感のある作風で描写されています。

中央の絵師が地方を中心として描いた錦絵としては、時代考証に関する違いはみられますが、珍しい資料の一つです。

## 上半期の活動

### 展示

#### 平成10年度収蔵資料展

4月5日まで

#### 市民制作仮面展

5月25日～6月30日

#### 大鬼剣舞展

7月11日～8月22日

### 講座

#### 鬼っこわんぱく講座

##### 子供の日わくわくイベント

(鬼壁画・鬼剣舞にヘンシン・大きな鬼の絵)

鬼っこ合宿・鬼瓦づくりなどをして楽しみました。

#### 鬼学講座

民間信仰と祖霊神・鍛冶神・鬼瓦制作・金工と鬼などのテーマで学習を深めました。

### 芸能公演

毎月第4日曜日午後1時30分から、野外ステージにて鬼剣舞を中心とした公演を行いました。

- |      |   |          |
|------|---|----------|
| 4/25 | 岩崎鬼剣舞                                       | 73人      |
| 5/2  | 相去鬼剣舞                                       | 181人     |
| 5/23 | 御免町鬼剣舞                                      | 83人      |
| 6/27 | 谷地鬼剣舞                                       | 124人     |
| 7/25 | 口内鬼剣舞                                       | 84人      |
| 8/15 | 金津流鶴羽衣鹿踊                                    | 218人     |
| 8/22 | 大鬼剣舞展、記念芸能公演                                | 6団体 375人 |
|      | 原体剣舞、赤沢鎧剣舞、岩崎鬼剣舞、北上農業高校剣舞部、朴ノ木沢念仏剣舞、道地ひな子剣舞 |          |



# NEWS

## 「鬼ッズプレイミュージアムの開設」

—平成11年度親しむ博物館づくり事業に採択—

文部省では、子どもの「生きる力」をはぐくむ上で、さまざまな体験活動の機会を与えることが大切であるとして、平成14年度からの完全学校週5日制の実施を前に地域での子育てを支援しようと、その基盤作りに取り組んでいます。

〈全国子どもプラン〉と名づけられたこの計画の中に、博物館を対象とした「親しむ博物館作り事業」があり、参加体験型の展示や五感を働かせて行う活動などの事業計画を全国の博物館より募集、全国から70の計画が提出され、そのうち31の事業が採択されました。岩手県では、前沢町の牛の博物館と鬼の館が採択を受けました。

これにより、鬼の館の館内に子どものための遊び場「鬼ッズプレイミュージアム」が開かれ、各地の鬼面や衣装をさわったり、身に付けることのできる展示や鬼の面づくりなどの小工作ができるほか、資料などを学校や子ども会活動に持参するアウトリーチ活動の拠点として活用を呼び掛けていきます。

この試みは、博物館の新しい方向性を示すものとして、また、来館者が主体的に「楽しむ博物館」づくりの第1歩として、注目されています。



## 『できごと Oni Museum』

～新聞の見出しより～

H.11上半期

インターハイに合わせ「大鬼剣舞展」を開催 資料を一堂に展示	[岩手日日 H 11. 4. 10]
創作活動や剣舞体験 来月から多彩に開講 鬼っこわんぱく講座	[岩手日日 H 11. 4. 22]
芸能公演あす“初日” 今年度も11回を予定	[岩手日日 H 11. 4. 24]
岩崎鬼剣舞でスタート 鬼の館 芸能公演が今年も開幕	[岩手日日 H 11. 4. 26]
25日から仮面展 市民制作の作品募集	[岩手日日 H 11. 5. 2]
鬼をモチーフに創作 こどもの日にイベント	[岩手日日 H 11. 5. 8]
「鬼学講座」が6月20日開講 北上市立「鬼の館」	[岩手日日 H 11. 5. 8]
“鬼追い鬼”も登場 「世界の仮面」コーナー展示替え	[岩手日日 H 11. 5. 17]
手作り仮面が一堂に 市民制作	[岩手日日 H 11. 5. 26]
あす「大乗神楽大会」 特別出演含め11団体が競演	[岩手日日 H 11. 6. 12]
伝統の妙技を競演 大乗神楽大会約六時間にわたり堪能	[岩手日日 H 11. 6. 15]
38人の代表作を掲載 市民制作仮面展 リーフレットを作製	[岩手日日 H 11. 6. 17]
「鬼剣舞の里」をPR インターハイに合わせ「大鬼剣舞展」	[岩手日日 H 11. 6. 29]
みちのくの芸能肌で鬼剣舞に挑戦 東京・桐朋女子中の41人	[岩手日日 H 11. 7. 9]
あすから「大鬼剣舞展」開催 県内の民俗芸能を全国にアピール	[岩手日日 H 11. 7. 10]
観光案内の心得学ぶ ガイド役市民が学習会	[岩手日日 H 11. 7. 24]
夏の岩手路さわやかに 皇太子ご夫妻インターハイ熱心に交流、応援 鬼の館鬼の資料ご覧	[岩手日報 H 11. 8. 3]
鬼剣舞なぜ、どうして 「鬼の館」で教室開く	[岩手日日 H 11. 8. 11]
芸能公演が来館者に好評 あす鶴羽衣鹿踊（江刺市）が出演	[岩手日日 H 11. 8. 14]
展示図録を発刊 大鬼剣舞展22日にシンポと芸能公演も	[岩手日日 H 11. 8. 17]
和だこづくりなどに挑戦 鬼っこわんぱく講座で合宿	[岩手日日 H 11. 8. 19]
芸能公演とシンポ開催 大鬼剣舞のイベントで	[岩手日日 H 11. 8. 20]
県内6団体が“共演” 鬼の館で芸能公演	[岩手日日 H 11. 8. 24]

## 鬼学ノート

### 随想「農業と鬼のかかわり」

児玉智江

#### 〈私の随想〉

私の実家は、母一人のサラリーマンで五人家族の生活であったが、父の実家も母の実家も大農家であった。

小さい頃から田んぼの回りで、田植えや稲刈りの風景を見ながら、子守りをしたり、されたりしながら遊び、日々を過ぎて来たのだ。

田の仕事も、家族皆で分担して仕事し、田植えや、稲刈りには近所の人や親戚が助人に来ていて、どういう関係の人かまで知り、小さい頃から、自然に社交をなされて来ていたのだ。

昭和三十七年、私が嫁いだ児玉家は、サラリーマンで生計を立てていながら五畝の田を作づけしている兼業農家であった。七〇代の義父母は、その田を管理しながら、たいてい田植えから取り入れまで頼んでいたのだ。経営は赤字で米を買って食べた方がお金がかからないのだ。

しかし、義父は、米づくり百姓は「生きるすべ」だから無くせないと言うのだ、少しでも農業にかかわっている事で一年間の行事にかかわり合う事が出来る。そして、「生きる楽しみの行事」と言って、アハハと照れ笑いするのだ。義父は行事の都度の餅が好きだからという事を解かれての笑いであったからだ。「人間が生きる行事」は、農業百姓を通して行って来ていたのだという事に始めて気づかされ義父の言った事を感じたのだ。

#### 〈生活の中に生きる行事〉

行事は、月に二つ三つあって、一がつく日は、

農業を休む日だと言って、休む日に休まないと鬼が笑うと言ったりした。今日は鬼の窯の蓋もあく日で女達は実家へ帰って楽しむ日だと言い、そのようにしないと鬼が笑ったり、怒ったりするといふのだ。

正月のお飾りの事についてですが、今は、店で買う事も出来ますが、義父は、お飾りや年縄まで自分の手作りで神様に上げていた。大堤の豊富な松林から一枝を折り門松に飾ったりした。一月十一日の、うはだて（農業の始まりの日）という日には、朝早く起き、としなを各部屋から集めて、メの白い紙をはずし束にして、長い笹竹の先に結び、畑にさした。「鳥ばい」と言うのだ。縄の部分のとしなは束にして、北西の角にある神木にまわしてお祈りするのだ。

私は結婚前は、このような行事は見えていないので夢の世界に思えたのだ。

#### 〈節分の豆〉

義母は、父の言う事にさからわず、全部手助けしてやりこなして来ていたのであった。二月三日の豆まきでは、一升斛に煎った大豆を入れて豆をまいた後で、歳の数だけ食べるのだと言って九五歳で亡くなった義父は、死ぬまで九〇以上の豆粒を一生懸命に嚙んでいた。自分自身は鬼だというのだ。豆をいっぱい食べて丈夫で良い鬼になるのだと言う。豆も食べれない者はできそこないの悪い鬼になって行くのだというのである。「俺が怒ったら鬼になるか蛇になるかだからな」と子供達への常日頃の脅し文句だったと義母は、私に教えてくれた。

悪い事をすれば、鬼は、本当に舌をぬくのだというこわい鬼の話は、今は、もはや、子供達にとってはもちろんのこと、大人にとっても、メルヘンの世界になっているのだ。

(平成十一年八月三十一日 記)

(こだま ちえ 鬼学講座受講生)

## 小正月の来訪神について

## 一 考 察

鈴木 明 美

日本列島における年中行事には、年間を通じて多種多様の祭事が種々の儀礼によって繰り広げられています。

しかし、近年においてこれら年中行事の多くは、世情の変化とともに、衰退や簡略化され、さらには形骸化されて、本来の姿と全く異なるものとして行われてきているものが数多くみられます。

正月の来訪者として知られる秋田県男鹿地方の「なまはげ」に類似する習俗は日本列島の海岸地域に主に分布して現在も行われていますが、この習俗も本来の姿を見失ったもののひとつであると思えてなりません。

これまでこの習俗の研究としては数多くの人々によって種々の説が解かれてきています。柳田國男は「小正月の来訪者」の一事例として捉え、さらに折口信夫は「春来る鬼」とし、客人神(まればと)として位置付けました。また、中村たかおは、なまはげ行事を「祭祀的秘密結社の痕跡をとどめたもの」として考察しています。この他にも修験者説や異邦人説などがあります。

日本民族は、縄文時代晩期以降、外来文化と接し、稲作文化を融合して農耕民族として古来から発展してきた民族であることは周知のとおりです。そこには、農耕と結び付いた各種の習俗儀礼や予祝・呪術儀礼が生まれ営まれてきました。

それは、年の瀬に行われるもの、正月・小正月・田植え時期・繁忙時期・刈り入れ時期・刈り入れ後の時期であったり、1年間の農耕生活形態に密着したものであったはずですが。これらは、農作業に伴う年中行事として定着し、確実に各個人に受け継がれてきた農耕精神文化の産物であったと思われまます。

このような農耕文化の視点からみれば奇習「なまはげ」習俗もまた、これらに起因する農耕精神文化から派生したひとつの予祝儀礼であると考えることができるものと推察されます。

この習俗が行われる、年の瀬から正月または小正月にかけての時期は、農耕民族にとって、その年の作物の豊饒の吉凶を左右する時期であり、神を祀り上げ、数多くの供物を捧げて豊作の約束をさせるという、いわば今でいう神と結ぶ豊作契約の時期で、呪術行事につながるものである。また、二人一組で山から里に降りてくる形態は、沿岸地域に分布する状況からも理解できるように、海を渡ってくる「春の神」と在地の「山の神」、すなわち「作神」であり「農耕神」であると考えられることによって理解できる。これら二神が里に降りて各家々を回り、門付けをして、その年の農耕にまわりつく“陰気”を祓い取り除くものと推察される。家々の玄関を叩いたり、ゆるするしぐさ、大声を立てさわぐしぐさ、はたまた鼻を鳴らすしぐさなどは“陰気”に対する威圧のしぐさと捉えられよう。

一方これら訪問者は、問答をするという習俗であるが、これもある程度の解釈が可能である。

問答は、その家の農耕に携わる中心的人物である戸主にまわりつく“陰気”にかけられる諭しの言葉であり、祓いの言葉でもあるとみられる。いわゆる農作物の収穫後の農閑期の暇な時期に戸主にまわり付いた、農耕にとってマイナス要因となる“陰気”に対して問いかけることによって、その“陰気”を取り祓い、その年の農作業に活力を与えようとする行為であるとみられる。すなわち、農耕に大敵である“なまげくせ”という“陰気”を取り除く精神儀礼手段のひとつであるとみられる。また、扮装のひとつである異形の仮面は、鬼であったり動物であったり、地域によって異なりを見せている。ただこれらに共通する仮面の形相はいずれも異形の形相をした忿怒の仮面がつけられる。これは“陰気”に対する威圧であり、戒めの現れでもであると見られる。

このような習俗を農耕民族を基盤として考えた場合、現在行われている形態が変化した形であっても、その儀礼様式からある程度追求することが可能であり、この「なまはげ」に代表される「小正月の来訪神」についても、農作物の豊饒呪術祈願に密接につながりをもって生まれ、受け継がれてきた農耕呪術儀礼のひとつであると考え次第である。(主任学芸員 すずきあきよし)

## 鬼の里だより

平成11年4月～9月

- 4月25日(日) 芸能公演・相去鬼剣舞
- 5月2日(日) 芸能公演・岩崎鬼剣舞
- 5日(水) 子どもの日わくわくイベント
- 23日(日) 芸能公演・御免町鬼剣舞
- 25日(火)～6月30日(水)  
特別展 市民制作仮面展
- 6月13日(日) 第6回大乘神楽大会
- 20日(日) 第1回鬼学講座・力丸光雄先生
- 27日(日) 芸能公演・口内鬼剣舞
- 7月11日(日)～8月22日(日)  
第10回企画展 大鬼剣舞展
- 18日(日) 第2回鬼学講座・鈴木宏先生
- 25日(日) 鬼剣舞公演・谷地鬼剣舞
- 31日(土) 第3回鬼学講座・佐藤三郎先生

- 8月1日(日) 皇太子ご夫妻鬼の館来館
- 2日(月)～24日(火)  
博物館実習生受け入れ
- 15日(日) 芸能公演・鶴羽衣鹿踊り (江刺市)
- 17日(火)～19日(木)  
鬼っこわんぱく講座 (合宿)
- 22日(日) 芸能公演・道地ひな子剣舞
- 29日(日) 第4回鬼学講座・小野寺正人先生
- 9月1日(水)～30日(木)  
特別展 世界の鬼たち「信仰の神々」
- 12日(日) 第5回鬼学講座・照井悦幸先生
- 26日(日) 鬼剣舞公演・二子鬼剣舞
- 29日(水)～30日(木)  
鬼の館協議会委員視察研修  
(致道・土門博物館)

## 利用案内

**開館時間** 午前9時から午後5時まで。  
なお、入館は午後4時30分まで。

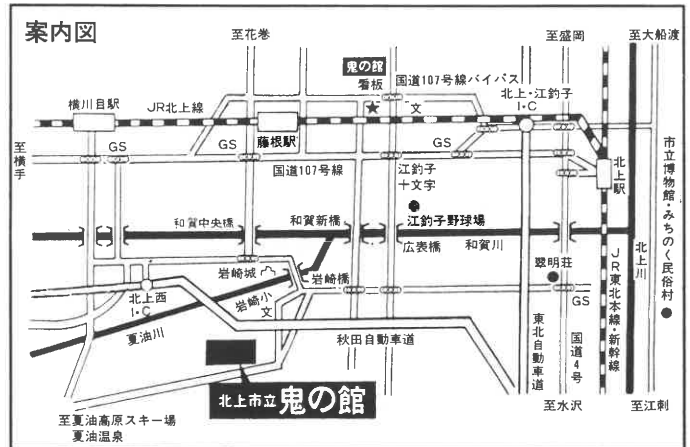
- 休館日**
- ・月曜日(国民の祝日の場合は開館)
  - ・国民の祝日の翌日(土・日・月曜日の場合は開館)
  - ・上記開館の振替日
  - ・12月28日～1月4日まで
  - ・館内整理日(11月27日～30日)

**入館料**

一般	300円(250円)
高校生	200円(150円)
小中学生	150円(100円)

( )内は20人以上の団体料金。  
市内の学校の児童生徒が学習活動で申請により利用するとき、毎月第2・4土曜日に利用するときは入館料が免除になります。

- 交通案内**
- ・JR北上駅西口よりバスで25分。煤孫經由横川目行、瀬美温泉行「岩崎橋」下車徒歩10分。夏油温泉行(季節営業-5月～10月)「鬼の館前」下車。
  - ・JR北上駅より車で20分。東北自動車道北上江釣子I・C、秋田自動車道北上西I・Cからともに車で15分。



## 北上市立鬼の館だより

第11号 1999.9.30

編集・発行 北上市立鬼の館

〒024-0321 北上市和賀町岩崎16地割131番地  
TEL 0197(73)8488 FAX 0197(73)8508